（１４） アスパラガス

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
1 軟腐病 *Pectobacterium carotovorum*	1.排水を良好にし、過湿を避ける。 2.発病茎は早期に抜き取り処分する。 3.窒素肥料の過剰施肥を避け、適正施肥をする。	発病初期	31	スターナ水和剤
2 立枯病 *Fusarium oxysporum* f.sp. *asparagi*	1.立枯病は株が衰弱すると発生しやすいので、むりな収穫をしない。 2.苗立枯れは６月以降発病が多いので、播種を遅らせない。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.土壌消毒方法はⅢ－14. 土壌病害虫の防除の項参照。	土壌消毒	－ － －	クロールピクリン ドロクロール クロルピクリン錠剤
		発病初期	1 3	トップジンＭ水和剤 トリフミン水和剤
3 茎枯病 *Phomopsis asparagi*	1.排水を良好にする。 2.夏季に茎葉を過繁茂させない。 3.12月に茎葉を刈り取り、圃場から持ち出し、処分する。 4.雨よけをすると発生が少ない。 5.発病茎を除去する。 6.メデルシートで被覆する。 7.刈り取った後のうねの上は火炎処理する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.秋期に降雨が多い場合は、散布回数を増す。 2.ベンレート水和剤は株腐病にも登録がある。 3.アフェットフロアブルは褐斑病にも登録がある。 4.アミスター20フロアブルは浸透性を高める効果のある展着剤は薬害のおそれがあるので使用しない。 5.フロンサイドＳＣ、ジマンダイセン水和剤、グリーンダイセンM水和剤、ペンコゼブ水和剤は露地栽培での登録である。	５月下旬～９月	1 1 2 7 7 11 11 M1 M1 M1 M1 M1 M5 M7 11･7 7･M5	ベンレート水和剤 トップジンＭ水和剤 ロブラール水和剤 アフェットフロアブル パレード２０フロアブル アミスター２０フロアブル ファンタジスタ顆粒水和剤 コサイド３０００ Ｚボルドー ＩＣボルドー６６Ｄ ムッシュボルドーＤＦ キノンドーフロアブル ダコニール１０００ ベルクート水和剤 （混）シグナムＷＤＧ （混）ベジセイバー
		収穫終了後	M1 1･M5	ＩＣボルドー６６Ｄ （混）ダコレート水和剤
		収穫終了後 秋期まで	29 M3 M3 M3	フロンサイドＳＣ ジマンダイセン水和剤 グリーンダイセンＭ水和剤 ペンコゼブ水和剤
4 紋羽病 （紫紋羽病） *Helicobasidium mompa*	1.未分解有機物の多い圃場は発生しやすいので作付を避ける。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.土壌消毒方法はⅢ－14. 土壌病害虫の防除の項参照。 2.ダイズ、ニンジン、落花生も侵す。 3.エコホープＤＪは、夏期高温時の使用はさけ、定期的に数回灌注する。	土壌消毒	－	クロールピクリン
		５月から数週間おきに数回	BM2	エコホープＤＪ
5 白絹病 *Sclerotium rolfsii*	1.発病株を除去する。 2.既発地では栽培しない。 3.通風を良好にする。			
6 斑点病 *Stemphylium herbarum* *S. lycopersici*	1.前年の被害茎葉を放置せず、秋または春先にかき集めて、埋没または焼却処分する。 2.過繁茂にならないよう、茎葉の刈り込みや施肥管理を行う。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.アフェットフロアブルは褐斑病にも登録がある。 2.本病対象にストロビーで防除を実施しているところでは、茎枯病、褐斑病の発生が少ない。 3.フロンサイドＳＣ、ジマンダイセン水和剤、グリーンダイセンM水和剤、ペンコゼブ水和剤は露地栽培での登録である。	発病初期	2 3 7 11 11 11 52 M1 M1 M1 M1 M5 M7 M7 7･M5 M1･M5	ロブラール水和剤 スコア顆粒水和剤 アフェットフロアブル アミスター２０フロアブル ストロビーフロアブル ファンタジスタ顆粒水和剤 アイーナ２０フロアブル コサイド３０００ Ｚボルドー クプロシール ムッシュボルドーＤＦ ダコニール１０００ ベルクート水和剤 ベルクートフロアブル ベジセイバー （混）シトラーノフロアブル
		収穫終了後	M1 1･M5	ＩＣボルドー６６Ｄ （混）ダコレート水和剤
		収穫終了後 秋期まで	29 M3 M3 M3	フロンサイドＳＣ ジマンダイセン水和剤 グリーンダイセンＭ水和剤 ペンコゼブ水和剤

アスパラガス

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除		
		防除時期	RACコード	薬剤
7 褐斑病 *Cercospora asparagi*	1.前年の被害茎葉を放置せず、秋または春先にかき集めて、埋没または焼却処分する。 2.過繁茂にならないよう、茎葉の刈り込みや施肥管理を行う。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.７、８月の間に１～２回は薬剤散布する。	発病初期	2	ロブラール水和剤
			3	ラリー水和剤
			11	アミスター２０フロアブル
			11	ファンタジスタ顆粒水和剤
			M1	コサイド３０００
			M5	ダコニール１０００
			M7	ベルクート水和剤
			11･7	（混）シグナムＷＤＧ
8 アブラムシ類	1.周辺雑草を防除する。 2.飛び込み軽減のため、ハウス開口部を防虫ネット（１㎜目合以下）で被覆する。 3.施設周辺にシルバーテープをはる。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.本虫対象に防除を実施しているところでは、アザミウマ類の発生が少ない。	発生初期	4A	モスピラン顆粒水溶剤
			4A	ダントツ水溶剤
			21A	ハチハチフロアブル
			29	ウララＤＦ
9 オオタバコガ	1.幼虫は見つけしだい捕殺する。 2.飛び込み軽減のため、ハウス開口部を防虫ネット（４㎜目合以下）で被覆する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.本虫対象に防除を実施しているところでは、アザミウマ類の発生が少ない。（ブロフレアＳＣを除く） 2.本虫対象にアファームで防除除を実施しているところでは、ハダニ類の発生が少ない。	若齢幼虫期	3A	アーデント水和剤
			5	ディアナＳＣ
			6	アファーム乳剤
			13	コテツフロアブル
			15	カスケード乳剤
			28	フェニックス顆粒水和剤
			30	ブロフレアＳＣ
			UN	プレオフロアブル
10 ヨトウムシ	1.卵塊、幼虫集団を見つけたら摘除する。 2.飛び込み軽減のため、ハウス開口部を防虫ネット（４㎜目合以下）で被覆する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.アディオン乳剤はカメムシ類にも登録がある。 2.本虫対象に防除を実施しているところでは、アザミウマ類の発生が少ない。 3.本虫対象にアファームで防除除を実施しているところでは、ハダニ類の発生が少ない。	発生初期	3A	アディオン乳剤
			3A	アディオンフロアブル
			3A	アグロスリン乳剤
			6	アファーム乳剤
			13	コテツフロアブル
			28	フェニックス顆粒水和剤
			30	ブロフレアＳＣ
			UN	プレオフロアブル
11 シロイチモジヨトウ	1.卵塊、幼虫集団を見つけたら摘除する。 2.飛び込み軽減のため、ハウス開口部を防虫ネット（４㎜目合以下）で被覆する。	発生初期	30	ブロフレアＳＣ
12 ハスモンヨトウ	1.卵塊、幼虫集団を見つけたら摘除する。 2.飛び込み軽減のため、ハウス開口部を防虫ネット（４㎜目合以下）で被覆する。 3.ハウス支柱等にも産卵するので注意する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.ノーモルト、カスケードは遅効性なので、若齢幼虫期に防除する。 2.カスケードはアザミウマ類にも登録がある。 3.本虫対象にカスケード、アファームで防除を実施しているところでは、ハダニ類の発生が少ない。 4.本虫対象にディアナ、アニキ、グレーシアで防除を実施しているところでは、シロイチモジヨトウの発生が少ない。	発生初期	3A	アディオンフロアブル
			5	ディアナＳＣ
			6	アファーム乳剤
			6	アニキ乳剤
			11A	バシレックス水和剤
			11A	ゼンターリ顆粒水和剤
			11A	デルフィン顆粒水和剤
			11A	フローバックＤＦ
			11A	エコマスターＢＴ
			11A	サブリナフロアブル
			13	コテツフロアブル
			15	ノーモルト乳剤
			15	カスケード乳剤
			22B	アクセルフロアブル
			28	フェニックス顆粒水和剤
			28	プレバソンフロアブル５
			30	グレーシア乳剤
			30	ブロフレアＳＣ
			UN	プレオフロアブル
13 ハダニ類	1.周辺雑草を防除する。 2.発生が多いときには、収穫を打ち切って全刈りを行う。 3.刈り取った茎葉は圃場から持ち出し、処分する。 4.刈り取った後のうねの上は火炎処理する。	発生初期	6	コロマイト乳剤
			13	コテツフロアブル
			23	モベントフロアブル
			25A	ダニサラバフロアブル
			30	グレーシア乳剤
			-･5	（混）ダブルシューターＳＥ

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

アスパラガス

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除		
		防除時期	RACコード	薬剤
14 ネギアザミウマ	1.周辺雑草を防除する。 2.タマネギ、ニンニク等に隣接した圃場では、飛び込み軽減のため、防虫ネット（0.8mm目合以下）で被覆する。 3.発生が多いときには、収穫を打ち切って全刈りを行う。 4.刈り取った茎葉は圃場から持ち出し、処分する。 5.施設外縁に光反射資材を敷設する。 6.雨よけ栽培では近紫外線除去フィルムの被覆が侵入防止に効果がある。 7.成茎は地際から刈り、刈り取りと保温開始の間は２週間以上あける。 8.雑草や外観が異常な若茎は早めに除去し、増殖源を減らす。 9.圃場内の数か所で成茎の擬葉が繁茂しているところを手で払って、10×20cm程度の板上に１か所当たり１～５頭の成虫を認めたら防除する。 **<薬剤使用の特記事項>** 1.グレーシア乳剤、ダブルシューターＳＥはアザミウマ類で登録がある。	発生初期	4A 4A 4A 4A 4A 5 5 9B 14 21A 23 30 34 34 UN -･5	モスピラン顆粒水溶剤 アクタラ顆粒水溶剤 ダントツ水溶剤 スタークル顆粒水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤 スピノエース顆粒水和剤 ディアナＳＣ コルト顆粒水和剤 リーフガード顆粒水和剤 ハチハチフロアブル モベントフロアブル グレーシア乳剤 ファインセーブフロアブル アベンジャーフロアブル プレオフロアブル （混）ダブルシューターＳＥ
15 コナジラミ類	1.周辺雑草を防除する。 2.ハウス開口部に防虫ネット（0.4mm目合以下）をはり、成虫の飛来を防止する。	発生初期	4A 4A 4A 5 9B 21A 23	モスピラン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤 ディアナＳＣ コルト顆粒水和剤 ハチハチフロアブル モベントフロアブル
16 ナメクジ類	1.除草や残さ処理などにより、多湿で有機物の多い圃場環境を避ける。	発生初期	－	ナメクリーン３